

医師の異動（9月）

- 着任（令和6年9月 1日付） 耳鼻咽喉科専攻医 金田 章真
- 退職（令和6年8月31日付） 心臓血管外科責任部長 植山 浩二

「もっと市民に愛される病院」へ

SINCE 2024



8月10日、市立長浜病院創立80周年記念事業の一つとして、開業医の先生方や関係機関の皆さんとの顔の見える良好な関係を深め、より質の高い医療提供体制を構築することを目指し、地域医療連携意見交換会を開催しました。



松田教授

第1部では特別講演として、京都大学医学部整形外科教授の松田秀一先生に「膝関節痛のマネージメント」をテーマにご講演いただき、参加者の皆様は興味深く聴講され、活発なご質問をいただきました。



第2部では意見交換会を催し、日ごろからお世話になっている地域の開業医の先生方や、医療機関、関係機関の皆さんと当院の医師や職員が親交を深めました。

もっと市民に愛される病院へ、開業医の先生方をはじめとして地域の皆様方との連携とご協力のもと、より良い病院運営に努めてまいります。

医療職説明会・体験会に地元高校生20人が参加

「本物の現場を知ろう、見よう」をテーマに市立長浜病院80周年記念事業実行委員会が医療を志す若者を対象とした医療職説明会・体験会を8月13日、20日に開催。ホームページや学校掲示のポスターを見て参加してくれたのは地元高校生20人（男子4人・女子16人）です。

体験希望も看護師、管理栄養士、診療放射線技師、薬剤師、理学療法士、



作業療法士そして臨床検査技師と多職種にわたり、どれも当院にとっても湖北医療圏域にとっても欠くことのできない職種・医療人です。

「改めてその職・仕事の魅力と大切さを知ることができました。勉強頑張ります」。

「必ず資格を取りたいです。ありがとうございました」と参加した高校生の感謝の言葉に感激しきりの当院職員。

参加された皆さん、未来の医療を支え夢と希望にあふれた医療人としての活躍を期待しています。



市立長浜病院は創立80周年

市立長浜病院 地域医療連携だより

令和6年9月1日号
No. 234

理念
地域住民の健康を守るため、
「人中心の医療」を発展させ、
地域完結型の医療を推進します。

市立長浜病院
地域医療連携室



救急告示病院 地域がん診療連携拠点病院 地域医療支援病院
日本医療機能評価機構認定病院 厚生労働省臨床研修指定病院 周産期協力病院



謹啓 時下益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は当院病院事業に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。9月の外来診察担当医師表を別添資料でお届けいたしますので、ご査収ください。 敬白

9月9日は救急の日 救急センター長からのご挨拶

救急センター センター長 陌間 大輔

日頃より地域の救急医療にご協力頂き、誠にありがとうございます。

この度、「救急の日」に因み、当院救急センターを紹介する機会を頂きました。

当センターでは救急初療ベッドを3つ設け、重症患者対応を行っています。また点滴加療や経過観察用に8床のベッドを設置しています。診察室は内科系、外科系、SCU（脳卒中对応）の3部屋と、結核や麻疹など空気感染をする感染症を疑う患者様へ対応するための陰圧室を1部屋設けております。一般撮影室やCT、MRI検査室も救急初療室と隣接しており、スムーズに画像診断を行うことができます。緊急手術やカテーテルが必要な場合、救急センターから専用エレベーターを利用し、心臓カテーテル検査室・脳アンギオ検査室・手術室・ICUへ移動ができ、緊急度の高い救急患者様への迅速な治療や他部署との連携をとっています。

診療体制としては、平日日中は救急専従医師と当番医師、各科専門医で対応しております。夜間休日は内科系・外科系・SCU当直の3名体制となります。循環器内科医師、救急科・放射線科看護師、放射線科技師、臨床工学技士の協力のもと、24時間緊急カテーテル及び人工心肺導入を行える体制を整えており、カテーテル手術数は滋賀県内トップクラスを誇ります。また当院には心臓血管外科があり、専用のホットラインを運用し、大動脈解離に対する手術にも備えております。湖北地域だけでなく、湖東地域からも緊急手術でのご紹介を頂いております。

また当院の特徴として脳卒中ケアユニットを県内で初めて運用開始した病院で、1次脳卒中センターにも指定されています。脳神経外科・神経内科医師による24時間院内常駐があり、脳卒中疑い患者への迅速な対応診断、血栓溶解療法や血栓回収療法が可能です。

当院は2次救急指定医療機関となっておりますが、前述のように急性心筋梗塞や大動脈解離、脳卒中など一部3次救急も担っております。

さて、9月9日を含む1週間を「救急医療週間」と厚労省が定めています。コロナをきっかけに救急要請数が増加し、救急医療体制が逼迫しているというニュースをよく目にするようになりました。湖北地域も例外ではなく、救急要請が重なると近隣の消防署から出動できず、遠方からの救急車出動を余儀なくし、患者様に接触して病院へ搬送されるまで時間を要することがあります。湖北地域の救急医療体制を守るためにも、是非この機会に患者様やご家族にも救急車の適正利用や#7119の利用啓発にご協力いただけると幸いです。

9月9日は救急の日

当院救急センターの紹介



スムーズな治療に繋げる救急センターへ

救急診療は、患者様の症状や緊急度に応じて一次から三次救急に区分されます。当院（救急センター）は、入院治療が必要と思われる患者様の診療を行なっている二次救急医療機関です。当院の救急センターは、平成27年10月に完成した診療支援棟の1階にあります。



当院センターの特徴

救急初療室に、放射線一般撮影室やCT室、MRI室を隣接させ、迅速な診療が行えるようになっています。



救急センターから専用エレベーターを利用し、心臓カテーテル検査室、脳アンギオ検査室、手術室、ICUへ移動できるようになっており、緊急度の高い救急患者様へのより迅速な治療と他部署との連携が取りやすい施設配置にしています。さらに令和6年4月から、診療支援棟4階に新たに心臓専用カテーテル検査室の増設と超高画質・超低線量のアンギオ装置を導入し、多くの重症患者様の診療にあたることが可能になりました。



診療支援棟1階への救急センター整備にあたり、経過観察室（点滴室）のベッドを増やし、また、救急受付窓口も開設し、受付業務や基本カードの発行等事務処理改善したことで、受付から帰宅までの流れがスムーズになるようにいたしました。

突然の予期せぬ発症や受傷された患者様、ご家族に対して少しでも不安・苦痛を軽減でき、診療が進むよう努めてまいります。



センター浅見主任看護師から



当院の救急センターは、救急センターで勤務する看護師に加え、一般外来、内視鏡検査室、血管カテーテル検査室、化学療法室、ICUなどの看護師も携わり業務をしています。そのため、受診された患者様が緊急で内視鏡治療や血管治療が必要となった場合はスムーズに治療に移行することが出来る他、救急センター受診後に専門領域での治療が必要な場合はそのまま外来診療に繋げることが出来ます。救急センターで勤務する看護師の中には、特定行為看護師が2名おり特定行為の実施により医師をサポートし患者様により迅速な対応が出来るように努めています。

さらに、救急看護認定看護師、感染管理認定看護師、慢性呼吸器疾患認定看護師といった有資格者も勤務しており、熟練した看護技術を用いて水準の高い看護の提供や看護実践を通してスタッフへの指導などを行っています。

救急搬送または受診される患者様のなかには、受診時から社会資源が必要な状況の患者様や独居の高齢者などさまざまなソーシャルハイリスクを抱えた患者様も受診されており、社会的調整が求められることがあります。中でも帰宅される患者様で在宅療養が困難な場合は、在宅支援看護師やメディカルソーシャルワーカーと連携を取り地域社会へと繋げるなど切れ目ない支援を心がけております。



私たちは、病院を訪れた患者様が安心して安全に受診目的が果たせ、当院を受診してよかったと感じていただけるよう、これからも地域の患者様の気持ちに沿った看護を提供し、地域完結型の医療を、医療・福祉関係者の皆様と一緒に頑張って取り組んで参りたいと存じます。

救急医療の提供実績

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
救急用又は患者輸送自動車により搬入した救急患者の数	2,724人 (1,202人)	2,581人 (1,249人)	2,996人 (1,071人)	3,194人 (1,162人)
上記以外の救急患者の数	6,034人 (1,381人)	6,989人 (1,393人)	7,043人 (1,508人)	6,710人 (904人)
合 計	8,758人 (2,538人)	9,570人 (2,642人)	10,039人 (2,579人)	9,904人 (2,066人)

(注)括弧内は、入院を要した患者数を記載